

# 会 議 録

## 1 附属機関等の会議の名称

令和7年度第1回丹波篠山市図書館協議会

2 開催日時 令和7年7月9日(水) 13:30～ 15:50  
(傍聴の受付時間 13:15～13:25)

3 開催場所 丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

## 4 会議に出席した者

(1) 委員 細見泰弘、木村研、福西寿美子、中西文枝、小山三智子  
長澤一正、仲谷洋介 (敬称略)

(2) 事務局 中央図書館長 田中真紀子  
中央図書館主幹 小林康弘  
中央図書館図書館係長 宮本清輝  
中央図書館 司書 西澤健太郎

5 傍聴の人数 0人

6 会議の公開、非公開の別 すべて公開

7 会議資料の名称 ・令和7年度第1回丹波篠山市図書館協議会次第  
・令和7年度事業計画  
・第2次丹波篠山市立図書館ビジョンの進捗状況

## 8 審議の概要

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 教育長挨拶
- (4) 自己紹介
- (5) 正副F委員の選出

事務局案により下記のとおり決定  
会長 中西文枝  
副会長 福西寿美子

(6) あいさつ

(会長挨拶) 中西会長

会長に選出いただいた。微力だが、頑張りたいと思う。

最初に、丹波篠山市立中央図書館の基本計画のアドバイザーの菅原峻さんから「本物の図書館」という助言を賜りましたので紹介したい。本物の図書館を見分けるには「DNA」で調べる方法がある。

D (Director) は、館長が図書館奉仕を理解し職員を導けるかどうか。

N (New) は、新しく役立つ資料を十分に備えているかどうか。

A (Attractive) は、職員が知識や資格だけでなく、態度や対応が魅力的で、市民が利用したくなる雰囲気を持っているかどうか。

この3点を満たすことが「本物の図書館」の条件であり、それを実現するのは市民の力と図書館づくり運動である。

つまり、図書館の本来の役割は、優れた館長、新しい資料、魅力ある職員を備え、市民の力で育てられる図書館である。

良い図書館運営をするには、この図書館協議会が一翼になることは間違いないので皆さんの忌憚のないご意見をこの場で願います。

(会長)

報告事項(1)、(2)についての説明を事務局に求める。

(事務局)

(1)「令和6年度図書館事業報告について」資料2ページから、(2)「令和6年度図書館利用状況について」資料9ページにより事務局が一括説明。

(F 委員)

出張図書館を利用した方はどのようなことを述べられていたか。

(事務局)

配本所のことを初めて知っていただいた方やここで本の返却ができるのかなどのご意見をいただいた。

(F 委員)

普段図書館に来られない方も、この機会を利用して、図書館に行こうという方もいたのか。

(事務局)

そういう方もいたかと思う。図書館を利用しにくいエリアもあり、出張図書館を有効活用して欲しい。また、ご利用がされにくいエリアのまちづくり協議会の方に、何かイベントがあるときには図書館が出張するので声をかけていただきたいと思いますという願いをしている。

(F 委員)

図書館からは遠方に住まれている高齢の方、小さいお子さんとかが、その地域で本の貸し借りができ、本に接することができたら、とても有効な図書館の使い方だと

思う。

(G 委員)

「令和5年度実績教育委員会の点検・評価」で、子どもの読書離れに対する図書館としての対応が十分ではないとある。実際に令和6年度はどのように活動し、どのような結果であったのか。また、中央図書館内照明器具のLED化工事が完了とあり、今後電気使用量の削減が見込まれるとあるが効果はどうだったのか。

(事務局)

まず、子どもの読書離れに対する図書館としての対応が十分でないことについては、図書館司書が3名減ったことにより、団体貸出冊数が1クラスあたり令和5年度は50冊から、令和6年度は30冊にせざるを得なかったという背景がある。図書館として、児童生徒に対して本の提供をする体制が十分に整いにくくなってきている。これを受けて、図書館としては「読み聞かせ講座」、「斎藤敦夫氏の講演会」の開催を通して学校現場や、ボランティア団体の代表の方等子どもの読書活動に関わる関係者へのきめ細かな周知には取り組んできた。そういうところに力を入れた。

次に、LED照明器具の導入後の、令和6年度の電気使用量だが、電気使用量は若干減少したが、空調機の一部は20年以上前の古いものを使用しており効果は出にくい。

(F 委員)

配本所の周知と利用促進だが、配本所の利用者が増えている状況を見ると、功を奏していると思う。利用者が増えてはいるが、今後の配本所の周知はどのようにしていくのか。

(事務局)

引き続き、放送やお知らせ等をしていきたい。配本所の本を入れ替えの際はSNSでもお知らせを始めた。配本所担当の職員も今年度変えた。職員を変えることで本の選び方も少し変わってくるかと思う。また新たな気持ちで取り組んでいく。

(F 委員)

同じような方が借りられているか。

(事務局)

はい。資料3ページの「配本所の周知と利用促進」についてのご質問だと思うが、こちらについては配本所に置いている本だけではなく、中央図書館や市民センター図書コーナーの本を配本所を通じての貸し出しと返却数も含んでいる。

配本所に設置をしている貸出の分については、全部の配本所で22人が実人数になっている。だいたい固定をされてきたが、新たに出張図書館等でカードを作っていただきその後、継続してハートピアセンターに置いてある本を借りていただいているというようなことも出てきた。

(F 委員)

ハートピアセンターで利用者カードを作れるのか。

(事務局)

ハートピアセンターは、市職員を配置していないので、カードを作るのは多紀支所

に行っている。その後の貸し出しについては、ハートピアセンターにお世話になっている。

(F 委員)

他に城東支所、西紀支所も利用者カードの作成はできるのか。

(事務局)

城東支所、西紀支所で新規の利用者カードは作れるが、本の設置は、城東支所と西紀分室に置いている。

(F 委員)

西紀支所に本を置いていないのは以前からか。

(事務局)

令和6年1月に城東支所、今田支所に本の設置を開始したときに、西紀支所にも本を設置する案があったが、実現できてないのが現状である。

(F 委員)

丹波篠山市は面積が広く、図書館には通えない方がいるということで、この配本所という考えが出てきたと思うが、かつては西紀支所にも50冊置いていたと思う。無くなっていたという認識でよいか。

(事務局)

経過を調べて、西紀支所への設置について前向きに検討していく。

(A 委員)

SNSの投稿は、どなたがされているのか。

(事務局)

投稿は、行政職の2名体制でやっており、投稿写真の撮影や一部記事作成には司書も携わっている。

(F 委員)

学校園との連携で、学校図書館支援員が3人体制で、活動が、小学校が週に1回、中学校が6週に1回ということだが、子どもの読書離れの観点からも支援員の人数を増やす必要もあると思うが、今年度はどのような体制になるのか。

(事務局)

令和7年度も学校図書館支援員は3名である。

(F 委員)

読書離れを防ぐ第一歩として、1週間に1回ぐらいは支援員の方に入ってもらいたい。

(事務局)

読書活動推進計画の方でも、目標を支援員1名増にしようと読書活動推進会で決定

した。必要性は、図書館としては十分に感じている。学校教育部の方もそのように考えていると思うため、本日のご意見いただいたこともつなぎ、教育委員会全体で協議していきたい。

(F 委員)

支援員の数もそうだが、兵庫県下の図書館の貸出密度などの統計書があると中央図書館が俯瞰できると考える。

(B 委員)

支援員を増やしてほしい希望はある。それから学校で図書に関わる教職員が本に関わる講演会等に参加されているのかと気になる。

(C 委員)

小学校の教職員はあくまで図書の担当であり、専門的な立場はなく、図書の講座に行ったりすることはない。

(D 委員)

中学校でも、教職員の動きは、小学校と同じような状況になる。図書館支援員の増員の要望はしている。図書館支援員には、図書室の本の整理、登録等の手伝いを中心に活動をしてもらっている。

(F 委員)

やはりもっと活動してほしい。学校教育課の方に期待したいと思う。

(B 委員)

学校支援員は、学校で購入する図書の選書に関わっているのか。

(D 委員)

基本的には学校で選んでいる。図書館支援員からアドバイスをもらうことはある。

(E 委員)

学校図書館連絡協議会で、小学校部会と中学校部会があるが、中学校部会の開催はしているが、小学校部会の開催はなかったのか。

(事務局)

日程調整が上手くいかず、令和6年度は、小学校部会としてはできなかった。しかし、年度中に、読書活動推進会を3回開催したので、その場で情報共有はできたと考えている。

(会長)

報告事項(3)についての説明を事務局に求める。

(事務局)

(3)「令和7年度図書館主要事業の概要について」資料10ページ及び「令和7年度事業計画」により事務局が説明。

(B 委員)

一時保育事業で、申し込みは、11 世帯 16 名で、参加者は、3 世帯 4 名と説明があったが、結局利用はしなかったということか。

(事務局)

今回初めての実施で、どれくらいの方が来ていただくか分からなかったので、託児ボランティア 4 名に対し、参加者 4 名に厳選していたため、抽選をした。当日が一人欠席のため、結果参加は 2 世帯 3 名である。申し込みいただいた参加者の年齢が、例えば 5 歳児とか年齢が高ければ、もう少しお預かりも増やしたりもできるかと考えていたが、基本的には 4 名という募集にした。年齢が小さいお子さんが多かったため、結果 4 名での実施となった。

(B 委員)

今後の実施はどのように考えているのか。

(事務局)

ブックスタートなどの各種イベントでニーズ調査をし、令和 8 年度からの実施に向けて検討をしていく。

(F 委員)

今回の応募が 11 世帯 16 名であり、ニーズはあると思うので、積極的に進めて欲しい。

(F 委員)

市民センター図書コーナーの入館者数が増えているが中央図書館の入館者数は減っている。

(事務局)

様々な要因があると思う。令和 5 年度は、開館 20 周年で毎月イベントを実施していたこともある。他には、高齢化の問題で、今まで来れた方が来れなくなった方など増えているのではないかと推察する。

(F 委員)

市民センター図書コーナー内の「万兎の部屋」を、1,000 名ほどが利用されているが、去年は、開館をしたから来られたとも考えられ、今後は減ることも危惧されるが市長公室と共同での活動の考えはあるのか。

(事務局)

図書館としては、市民センターで開催するイベントなどで来館者が多い時に「万兎の部屋」の案内をしている。他課との連携だが、今年、市の取組事業で、先日から武庫川女子大学の学生が、「万兎の部屋」を見学したりしている。

市長公室とは常にどういう事業ができるかというような聞き取り等している。昨年度の図書館協議会でも少しお話したが、神戸大学の学生が取り組めるような活動の話が進んでいると聞いている。そういうものとも連携して、「万兎の部屋」も活用していただきたいと思っている。

(B 委員)

「万兎の部屋」に関連して、先日、私が小学校の朝読に行き、河合雅雄先生の本を読んだり、紹介をすると学校の先生が、「2学期に雅雄先生の勉強をします」とのことであった。河合先生についての学習は、市内学校全体で取り組みをされているのか。

(C 委員)

共通ではなく、各校の取り組みになると思う。

(事務局)

本日、中央図書館の方に図書館見学で、古市小学校の2年生が来てくれた。今後、「万兎の部屋」の方の見学も市長公室とともに声掛けをする。

(会長)

協議事項(1)、(2)についての説明を事務局に求める。

(事務局)

(1)「図書館ビジョンに基づく令和8年度事業に向けて」、「令和7年度図書館協議会委員視察研修」について、資料「第2次丹波篠山市立図書館ビジョンの進捗状況」により説明。

(G 委員)

図書館と地域を結ぶ図書館サービス網の拡充だが、市内の高齢化率も25%から31%に上がってきており、地域によっては50%を超える地域もある。その中で、長期実践項目の移動図書館は、令和4年度から検討されているのか、実践状況はどうか。少しでも進めば、今後の高齢化に向けた対応ができると思う。

(事務局)

移動図書館の検討は、進んでないのが現状である。近隣の図書館にも移動図書館をされているところもあるので、視察研修などで話を伺いたいと考えている。

(7)閉会

(副会長挨拶)

皆様には貴重なご意見をいただき感謝する。

魅力的な図書館を作っていきたいので、今後ともよろしく願います。